

〈2〉 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

本学では、中・長期的な教育研究環境整備計画として2011年3月に「横浜キャンパスマスタープラン」《資料VII-3》を策定し、高度な教育研究環境を有するメディアテーク・キャンパスの構築を目標と定めた。湘南ひらつか、中山（附属中・高等学校）キャンパスについては、横浜キャンパスと併せた3キャンパスの有効利用を含めたマスタープラン策定に向け、2013年より検討を開始した。所有している全ての建物・設備について、修繕等に関する中長期計画を作成し、計画的に設備機器の更新や大規模な建物修繕を実施している。校地に関しては、横浜キャンパスは、立地環境が住宅地の中にあるため、校地面積に対し建物数が多く、現状を超える新たな建物の建築は困難な状況にある。一方、湘南ひらつか・中山キャンパスは、自然緑地を抱えた広大な敷地を所有しているが、ともに、都市計画区域の市街化調整区域のため大学施設設置への制限がある。個別のキャンパスに関して、横浜キャンパスは今までの課題であった、授業講堂の不足、学生の寛ぎの場の不足、分散化した研究室などを改善するため、2014年に3号館を建設した《資料VII-4》。また、2012年に隣接地344.46㎡、2014年に隣接地124.63㎡を取得し、校地の拡張に努めている。湘南ひらつかキャンパスでは、2012年に設置した新学科に対応するため、13号館（研究室・演習室）を2013年に増設した。中山キャンパスにおいては、近隣への防塵・安全対策として、硬式野球場の人工芝化、防球ネットの大幅な嵩上げを実施したほか、課外活動支援の強化策として、陸上球技部のクロスカントリーコースの整備を実施した。

情報環境整備については、学内LANの整備とコンピュータ演習室の整備を中心に、法人としては横浜、湘南ひらつか、中山（附属中・高等学校）の3キャンパスを対象に整備を進めている。ネットワークのセキュリティ対応としては、「学校法人神奈川大学総合ネットワーク管理・運用規程」《資料VII-29》に基づき運用している。本学（附属中・高等学校を含む）の学生・生徒や教職員に対してアカウントを発行し、各種ネットワークサービスを提供している。基幹のネットワーク機器は冗長化構成を基本にしており、横浜、湘南ひらつか、中山の3キャンパスの回線も二重化している。ネットワークは、教育研究系ネットワーク、事務系ネットワーク及び無線LANネットワークに区分され、それぞれファイアウォールで保護し、学外からの侵入や攻撃を防御できるように制御している。対外インターネット回線は100Mbpsの帯域保証型の専用回線と1Gbpsのベストエフォート型の専用回線で接続している。ウイルス対策ソフト（F-secure）は包括契約を結んでおり、本学のパソコンだけでなく、教職員・学生が所有している個人のパソコンにも無償でインストールできるようにしている《資料VII-5》。また、学内で独立に管理されているサブネットワークや対外的にサービスを公開している機器に関しても、2014年度からネットワーク・サーバセキュリティの点検・評価を義務化し、毎年度ネットワークセキュリティ監査を実施する体制をとっている。横浜・湘南ひらつか両キャンパスともにコンピュータ演習室を設置し、各学部のカリキュラムに沿って情報関連の授業を実施している。演習室数とPC台数は、横浜キャンパスで8室計828台、湘南ひらつかキャンパスで6室計454台を設置している。演習室のPCのOSはWindows7で、アプリケーションソフトもビジネスソフトやマルチメディア系、プログラミング系など多様なソフトを利用できるようにしている。授業時間外の空き演習室は学生の自由利用として開放し、予習、復習、課題作成等幅広く利用されている。

また、両キャンパスとも、演習室至近にMNS (MIYAMO-NET Services) カウンターを設置し、スタッフが演習室利用環境の維持や学生・教員からの各種問合せに応じている。このほか、学内に無線 LAN アクセスポイントを両キャンパスの各教室等に 617 箇所設置し《資料Ⅶ-6》、これに接続可能なノートパソコンの貸し出しサービスを行っている。貸し出し用ノートパソコンは、横浜キャンパスで 200 台、湘南ひらつかキャンパスで 100 台を用意し、これを学生が利用している《資料Ⅶ-7》。